

# 県 外 派 遣 報 告 書

栃木県バスケットボール協会 審判部

<b>大会名</b>	第74回国民体育大会 いきいき茨城ゆめ国体2019	<b>開催地</b>	茨城県日立市・水戸市
<b>報告者名</b>	武井晋平 若林謙作 平山智章 慶野芽以	<b>派遣期間</b>	令和元年 10月3日～5日
<b>参加者</b> (所属都県)	<b>【日立会場(男子)】</b> 本部：小澤勤(山梨)、阿部聖(北海道)、片寄達(宮城)、平原勇次(東京)、加藤昌樹(愛知)、 有澤重行(山口)、伊藤亮介(京都)、梶崇司(栃木)、増淵泰久(栃木)、安西郷史(埼玉)、 北島寛臣(埼玉)、清水幹治(神奈川)、谷古宇孝(東京)、加藤暁生(東京)、大井陽平(埼玉)、 小澤朋克(群馬)、武井晋平(栃木) 近県：若林謙作(栃木)、山崎敬次郎(千葉)、安藤俊明(千葉)、佐田幸一(山梨)、手塚清孝(山梨)、 新井文明(東京)、草野伸明(東京) 自費：川井剛(鹿児島)、上山正智(鹿児島)、坂井元直(三重)、山本雄大(三重)		
	<b>【水戸会場(女子)】</b> 本部：渡邊整(栃木)、玉木彰治(富山)、岩木太郎(京都) 須黒祥子(東京)、大山賢史(栃木)、竹澤友美(埼玉)、中嶽希美子(千葉)、久保知仁(千葉)、 茂泉圭治(神奈川)、大庭英裕(神奈川)、村上恵美(神奈川)、遠藤大輔(東京)、 山岸大輔(埼玉)、久保あしみ(千葉)、廣瀬俊昭(神奈川)、丸山淳(山梨) 近県：平山智章(栃木)、慶野芽以(栃木)、佐藤麻衣子(千葉)、石崎公一(群馬)、本間さとみ(東京)、 上杉侑里子(東京)、島袋竹志(東京)、廣瀬歩(東京) 自費：山中萌衣(鹿児島)、林大貴(三重) 茨城県内審判員		
<b>【審判会議内容】</b>			
1. 開会の言葉 (茨城県審判委員長 稲葉威氏)			
2. 歓迎の言葉 (専務理事 宮田宗典氏)			
3. 挨拶 (JBA審判委員長 宇田川貴生氏)			
ノーフアウル/マージナル/ファウル の考え方について プレイがリーガルなのか、イリーガルなのかを見極める リーガルな接触でも簡単にファウルとしてコールされてしまうケースが見受けられる			
4. 大会注意事項及び確認事項(JBA審判委員会 小澤勤氏)			
5. 審判割当発表 (関東ブロック審判委員長 渡邊整氏)			
6. 所連絡			
7. 質疑応答			
8. 閉会の言葉 (茨城県審判委員長 稲葉威氏)			

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:令和元年 10月 4日(金)

審判員名	若林 謙作 (U1)	CC	有澤 重行 氏(山口)
カード	成年男子1回戦 秋田 対 神奈川	U2	佐藤 賢 氏(茨城)
◇ ミーティングの内容			
・見えたものを素直に判定している。見えないものを無理に鳴らさない。とても良い。今後も継続していく。			
・一方で、リードの時にもう少しオープンアングルを意識すると判定できるものが増えてくる。			
・リードのローテーション、エルボーにボールがあるときに迷ってしまうことがある。クルーワークを乱す原因になる。 →オフェンスの体の向きによってローテーションの決断をする方法もあるので工夫してみると良い。			
・トレイルのレベルが高いときがある。判定の説得力に欠けることにつながる。さらに見えてくるものが増えてくる。			
・1Qの終わり間際に2vs3で際どいケースがあった。予測してトレイルレベルを下げる必要がある。			
《審判主任》 阿部 聖 氏 (北海道)			

割当日:令和元年 10月 5日(土)

審判員名	若林 謙作 (U2)	CC	平原 勇次 氏(東京)
カード	少年男子2回戦 茨城 対 愛知	U1	山本 雄大 氏(三重)
◇ ミーティングの内容			
・トレイルレベルが高いときがある。プレイの見方が変わり、レフリーディフェンスしやすくなる。 →3Pライン(スローインライン)付近を基本に立ち位置を工夫してみると良い。			
・センターの基本のポジションを意識する。 →コートの中にいることを心がけることで、次のプレイへの対応がしやすくなる。			
・リードでのアウトサイドインをもっと意識すると、プレイがもっと分かりやすく判定できる。 →トレイルレフリーも安心してリードに判定を任せることができる。			
《審判主任》 有澤 重行 氏 (山口)			

## 【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今回、初めて国体に参加させていただきました。2試合の割当をいただき、とても貴重な経験をする事ができました。特に2試合目に担当した試合は地元茨城県の試合で、会場が独特な雰囲気にも包まれ、今までにない緊張感がありました。

ほんの数日間ではありますが、本部審判員の方々と一緒に試合を担当したり、ミーティングをしていただいたりした中で、今後の審判活動に活かすべきものが数多く見つかりました。特に各ポジションでの自分自身のウィークポイントが見つかりました。それを映像で再検証した上で、練習試合や研修会等で訓練し、確実な判定が下せるようにしていきたいと感じています。またクルーでの協力も改めて重要であると感じることもできました。アイコンタクトをはじめとするコミュニケーションツールを駆使して、より良い判定につなげられるように努めていきたいと思っております。

最後になりますが、今回の派遣に際しましてご配慮いただきました、宇田川貴生JBA審判委員長はじめ渡邊整ブロック長、渡邊諭県審判長、県内審判員、茨城県審判員、大会関係者各位に心より感謝申し上げます。

若林謙作

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日:令和元年 10月 4日(金)

審判員名	武井 晋平	CC	谷古宇孝 氏(東京都)
カード	成年男子1回戦 茨城県 — 沖縄県	U1	川井剛 氏(鹿児島県)
◇ ミーティングの内容			
・全体的には良かった。地元のゲームであったのでとても盛り上がった試合であった。			
・ファウル数が偏っている時間帯があったので、バランスが気になった。			
・オンボールのところの判定はできている。特にシュートに対する見方は良いと思う。			
逆に、オフボールの判定については、この試合では判定してほしいケースがあった。			
・EOQのクロックの確認。			
・4Qの最後の競り合っているゲームの中で、決断して取り上げたプロテクトシューターのファウルは良かったと思う。			
《審判主任》 片寄達 氏(宮城)			

割当日:令和元年 10月 5日(土)

審判員名	武井 晋平	CC	有澤重行 氏(山口県)
カード	少年男子2回戦 千葉県 — 兵庫県	U1	新井文明 氏(東京都)
◇ ミーティングの内容 (グループミーティング)			
・特にゲーム全体を通し良かったと思うので、これといって大きなものはない。			
・OOBの判定で逆だったものがあるので、そこからのベンチの信頼感を失いかねないので確認を。			
・顔の表情が2パターンぐらいしかないなので、次のステップとしてプレーヤーが頑張ったけど、仕方なくしてしまったファウルなど、顔の表情を変えることで表現することも大切。			
《審判主任》 平原勇次 氏(東京)			

## 【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今回は、国体という大きなステージに立つことができ、嬉しさと、とても勉強になった大会でした。

初日は、地元茨城県成年男子の試合に割当が入りました。観客も満員でそういった試合の中でコートに立つことができ、とても良い経験をさせていただきました。1点差で茨城が勝つという接戦のゲームでしたが、最後まで気を緩めることなくゲームに集中し、判定と確認することを常に考えて試合に臨みました。緊張もありましたが、こういう時こそ県内で経験してきたことが生かされるのだと、強く感じました。

両日も、3POでしたが、ベーシックにこだわり、PGCではローテーションのタイミング、クロック管理、3-2のフラッシュと、判定が割れたときの対応等起きそうな場面を想定してミーティングを行いました。

試合中は、必ずどこかでミーティングの場面に遭遇するので、事前に約束事を確認しておくことにより、スムーズに対応できると感じました。

あと3年後に栃木県でも開催となる国体。今回の経験を生かすと同時に、茨城県の皆さんの審判会議から当日の運営まで、大変参考となりました。今回の派遣に際しまして、渡邊整ブロック長、渡邊諭県審判長をはじめ、県内の皆様のご配慮、ご協力に感謝いたします。最後に、地元茨城県の皆様には大会期間中大変お世話になりました。心より感謝を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日: 令和元年 10月 4日(金)

<b>審判員名</b>	平山 智章(U1)	CC	川満有紀 氏(茨城)
<b>カード</b>	成年女子1回戦 北海道 対 石川	U2	鈴木孝一 氏(茨城)
<b>◇ ミーティングの内容</b>			
・3人のクルーワークに関しては、特に大きな問題もなく良かったと思う。			
・リード時に、カバーDEFがどこから来ているのかを把握できていなくて、Cにヘルプコールしてもらったケースがあったので、カバーDEFも視野に入れておき、判定しなければならない。			
・プライマリレフリーから見えないアングルであったり、コールできなかったものを、セカンダリーがヘルプできてた。			
<b>《審判主任》 大山賢人 氏 (栃木)</b>			

割当日: 令和元年 10月 5日(土)

<b>審判員名</b>	平山 智章(U2)	CC	玉木彰治 氏(富山)
<b>カード</b>	少年女子2回戦 千葉 対 福岡	U1	林大貴 氏(三重)
<b>◇ ミーティングの内容 (グループミーティング)</b>			
・ニューリードからのピーク・フラッシュや、OOBのヘルプなど、1試合を通してクルーで共通認識のもと協力してゲームを進められていたので良かったと思う。			
・チェックインしていない状態での判定(L時のローテーション中・C時でオールコートでボールを運んでいるときなど)はブレてしまうので、しっかりとチェックインして、プレーを長く見て判定すると、より信憑性の高い判定になってくると思う。			
・メカニクスの理解として、自分のプライマリーエリアではなくても、アングルを持っているレフリーがしっかりとコールしていたので良かった。			
<b>《審判主任》 川満有紀 氏 (茨城)</b>			

## 【感想・県内審判員へ伝えたいこと】

今回初めて国民体育大会に派遣して頂き、貴重な経験をさせて頂くことができました。

今大会で、改めてメカニクスの重要性を感じました。特にチェックイン・チェックアウトに関しては、チェックインが遅れてしまうと判定がブレてしまったり、チェックアウトが遅れてしまうと自分のエリアが疎かになってしまったりと、判定するためにはメカニクスの十分な理解が不可欠だと感じました。

また判定に関しては、審判会議の中で、ノーファウルorマージナルorイリーガルの判定を見極めましょうというところで、リーガルなコンタクトが簡単にコールされてしまっているケースが見受けられるが、しっかりと見極めたうえで判定していきましょと、宇田川審判委員長よりお話がありました。

今後も引き続き自身の判定力を磨いていくとともに、メカニクスの理解も深めていきたいと思います。

今回の国体を開催するにあたり、ご尽力頂いた茨城県の皆様。また、今回の派遣に関しましてご配慮頂きました、渡邊整関東ブロック長、渡邊諭栃木県審判長をはじめとする県内審判員の方々、他県・他ブロックの派遣審判員の皆様、そして、大会期間中大変お世話になりました茨城県審判員の皆様に感謝申し上げます。

平山 智章

# 県外派遣 審判ミーティング記録表

割当日: 令和元年 10月 4日(金)

審判員名	慶野 芽以(U1)	CC	福岡敏徳 氏(長崎)
カード	成年 1回戦 山形 対 愛媛	U1	根反祥恵 氏(茨城)
◇ ミーティングの内容			
・自分が判定しきれなかったプレーや現象に対して、その原因をより追究する 自分の位置取りが悪かったのか、目を当てるところが悪かったのか 等。			
・自分が笛を鳴らした判定の周囲(プレイヤー・ベンチ・観客等)への伝え方 笛を吹いてからの間を工夫する。また、コールしたものがどういったファウルだったのかを その場でジェスチャーをして表現をすることも効果的(アングル等で周囲から分かりづらいもの等)。			
・Primaryの確認(LとCの間でのゴール下のショットプレイに対し、LとCでダブルホイッスルになったケース) どちらがそのプレイを早く捕まえて、より良い位置で判定をできていたか。Lがclose downしてしっかり捉えられていたため、譲らずにLがそのままレポートに行ってもよかった。			
・声を使ってプレイヤーに教えるケースと、笛を使ってシンプルにコールをするケースの判断 基本的には笛を使って表現していくことを大切にする。 《審判主任》 渡邊整 氏 (栃木)			

割当日: 令和元年 10月 5日(土)

審判員名	慶野 芽以(U2)	CC	遠藤大輔 氏(東京)
カード	少年 2回戦 愛知 対 石川	U1	廣瀬俊昭 氏(神奈川)
◇ ミーティングの内容 (グループミーティング)			
・良いテンポセットでゲームを始めることができていた。			
・POCの確認(今回はハンドチェックについて) ルールブックやガイドライン等で、ファウルの種類それぞれの定義を改めて確認するとよい。			
・チームファウルの意識をクルーでより意識出来たらよかった。			
・ACプレスへの対応について(C) Cサイドのボールレベルが高い場所(バックコートのフリースローライン付近)でダブルチームが起こった。 Cはプレイヤーの様子をみながら、走り出すのか、プレイにステイするのかをより慎重に見極める。			
《審判主任》 村上恵美 氏 (神奈川)			

【感想・県内審判員へ伝えたいこと】			
<p>今回、初めて国民体育大会に参加させていただきました。これまで経験してきた大会とはまた違う独特な雰囲気の中、2試合の割り当てをいただき、大変貴重な経験をさせていただきました。</p> <p>1試合目は、最終的に1点差で勝敗が分かれた接戦のゲームを担当させて頂きましたが、シーソーゲームの状況だからこそ、EOQ・EOGの大切さをより一層実感しました。1ゲームのうち4回全てのEOQ(EOG)でショットまでプレイが展開され、その最後の1プレイに対する自分の準備が不足してしまっていたことで、現象を判定しきれなかったケースがありました。クルーでラスト1プレーを共有する際、クロック管理の確認だけではなく、クロックをもたないレフリーは特に最後の1秒までを慎重かつ丁寧にプレイを極める意識を持つ必要があります。その役割分担をクルーではっきりと確認することこそ「ラスト1プレー」の共有の大きな意味の1つであることを改めて学びました。</p> <p>最後に、今回の派遣に際しましてご配慮をいただきました、渡邊整ブロック長、渡邊諭県審判長をはじめ、県内の皆様に感謝いたします。また、茨城県の皆様には大会期間中大変お世話になり、心より感謝申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">慶野 芽以</p>			